

小笠原諸島の歴史的・自然的・地理的特性等

歴史的条件等

- 西暦1593年 小笠原貞頼により発見されたと伝えられる
- 明治9年 国際的に日本領土と認められる(一部欧米人の帰化)
- 昭和19年 太平洋戦争の戦局の悪化により、島民が本土に強制疎開
- 昭和21年 米国の軍政下に置かれる
- 昭和43年 日本に返還され、東京都の行政管理下に編入(本格的に帰島開始)
- 昭和44年 小笠原諸島復興特別措置法公布(以後、5年ごとに期限を延長)
- 昭和54年 第1回小笠原村長・村議会議員選挙実施(村政の確立)
- 平成23年 世界自然遺産登録

概況

- 人口 : 2,529人 (H24.4.1。戦前ピーク: 7,711人 (S19))
- 行政組織 : 小笠原村役場、東京都小笠原支庁、小笠原総合事務所(国)、小笠原自然保護官事務所(国) 他
- 交通手段 : 約6日に1便(片道約25時間半)の船便(航空路無し)
- 社会増減率(平成22年度)
 - ・転入数/総人口: 12.3% (離島4.2%)
 - ・転出数/総人口: 14.1% (離島5.1%)
- 国立公園面積割合: 79.9% (離島19.7%)



おがさわら丸

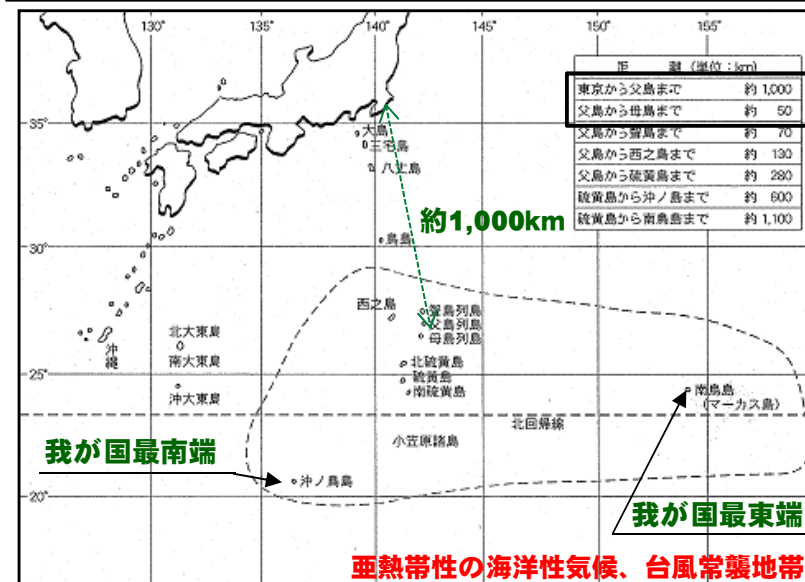
気候・自然

- <気候>
 - 亜熱帯に位置。気温の年間変化と日較差が小。
 - 湿度が高い海洋性気候。台風の発生・常襲地帯。
- <自然>
 - 固有の動植物が多数存在
(島の誕生以来、一度も他の陸地と地続きとならず独自進化)
 - 外来種の脅威により、貴重な生態系が崩壊の危機
(グリーンアノール、シロアリ、アフリカマイマイ、ノネコ等)
 - エコツーリズムの推進
(南島、母島石門における適正な利用のルール策定)
 - 病害虫により農作物に被害
(アフリカマイマイ、アリモドキゾウムシ、イモゾウムシ等)



位置

- 東京の南約1,000kmに位置(船便おがさわら丸で片道約25時間半)
- 父島列島をはじめとする約30の島
- 我が国の排他的経済水域の約3割



産業

<農業>	農家戸数	57戸 (平成24年1月1日現在)
	生産高	115百万円 (平成22年)
<漁業>	漁組組合員数	82人 (父島49人: 平成23年12月末現在) (母島33人: 平成23年3月末現在)
	漁獲高	562百万円 (平成22年・養殖分含む)
<観光>	観光客数	年間21,854人 (平成23年度、おがさわら丸乗船客数より)
	観光客消費額	2,277百万円

平成22年度から23年度にかけて入込客数は1.6倍に増加